

## 1 自己評価及び第三者評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200921		
法人名	株式会社メッセージ		
事業所名	アミーユ神戸伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬838-23		
自己評価作成日	平成22年5月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成22年6月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ノーマライゼーションを理念の基本として、障害を持つ前の生活を重視している。利用者が生活を送る上で阻害因子となっている原因を分析し、必要に合わせて補助具や援助を行うようにしている。地域との交流に取り組んでおり、施設から地域に出て行くだけではなく、地域ボランティアの受け入れを行い、施設と地域との相互の交流に取り組んでいます。職員は利用者と一緒に過ごしなが、日常生活を通して利用者の気持ちに寄り添いながら、生活を支援している。また社会的役割が喪失しないように家族や友人、友人との繋がりが維持できるように取り組んでいる。

### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ノーマライゼーションを理念の基本として掲げ、地域の一員として生活していることを大切にしながら、地域交流を積極的に行っている。ホームは、各ユニット毎に個性豊かで家庭的な温かい雰囲気が感じられる。フロアーには花や装飾品を飾り、ソファやテーブルの配置にも配慮が行き届き入居者が集い、利用者と職員と一緒にゆったりと過ごし、くつろいだ時間が過ごせる環境作りが出来ている。職員は日々の関わりの中で、利用者から出るふとした言葉から一人ひとりの思いや希望を把握し、利用者の立場に立って検討し支援している。利用者の気分転換やストレス発散ができるように、年間行事・施設行事で実施する外出以外に、個々の希望を聞き、要望に沿った日常的な外出支援を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関や職員詰所内の目のつきやすい場所に掲示し、利用者個人個人に合ったケアを実践している。	法人の理念を基に事業所独自の理念を作成し、事務所入り口など見えやすい場所に掲示している。10項目ある理念は、職員一人ひとりに問いかける項目になっており、カンファレンスの中でも職員全体に理念に基づいた業務への取り組みについて説明し、個々の取り組むケアの振り返る機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の際、近隣の方には積極的に挨拶を行い、幼稚園やパチンコ店、お寺の行事や小学校の夏祭りに参加している。	地域の一員として生活していることを大切にしながら、近隣にある、神社・小学校・幼稚園などとの交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の飲食店に外食にお連れし、お店の方に顔を覚えて頂いたり、地域の行事にも積極的に参加し、地域の方の目にとまるような機会を多く持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。取り組みや施設状況を報告し、意見や助言を頂きやすい雰囲気作りを努め、頂いた意見や助言をサービス向上に活かしている。	21年度は6回開催、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者代表、民生委員などの参加があり、入居状況・職員離職状況・行事・感染症についてなどを議題で実施し、運営推進会議での意見、ホームの質向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の交流会や勉強会にも積極的に参加し、情報の交換をしたり、密に連絡が取れる関係作りを努めている。	行政参加のグループホーム協議会参加し相談したり、直接電話しながら助言や指導を受けている。また、市の主催する研修会にも積極的に参加している。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、拘束行為については、職員に周知している。玄関の解錠は施設前の道路の交通量が多い為、1ユニットしか出来ていないが、不必要なベッド柵は使用せず、自由に動ける環境作りに取り組んでいる。	年1回研修を実施し、実践の場で振り返りを行い介護計画に反映させるようにしている。また、施錠については、鍵をかけない暮らしの大切さについて十分認識した上で、交通量の多い玄関は施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待にあたる研修を行い、カンファレンスで虐待と思われる援助をしていないかを話し合うようにし、問題がある場合は迅速に改善するようにしている。	虐待の範囲について事例を通して研修を実施している。また、現場で直接具体的に助言しながら絶えず現場の雰囲気注意到意を払うようにしている。管理者職員声かけを心がけ職員のストレスによる虐待の未然防止に努めている。	ホームでの虐待が見過ごされることがないように、虐待と思われる行為を発見した場合の対応方法を決め、職員の責務等を全員に周知徹底することが望まれる。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、管理者研修で権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、職員に伝えている。	管理者は権利擁護等の外部研修で理解を深め、職員への周知徹を図っている。	今後活用を必要とする状況が生じた時に備え、これらの制度や事業について全職員が学ぶ機会づくりの検討が望ましい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ご本人様と家族様に見学に来て頂き、不安な点を聞き取り、事前に説明するようにしている。そして、契約時にもご本人様、家族様に内容を分かりやすく説明するようにし、理解して頂けるように努めている。	施設長が契約に直接立会い、重要事項説明書を本人・家族に疑問点がないか確認しながら十分時間をかけて、利用者や利用者家族にわかる言葉で、例をあげながら納得できるように説明している。特に退居に関する事項についてはホームの「重度化対応・終末期ケア対応方針」を併せて説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1日1回日勤者が聞き取るようにしており、月末に管理職に文書として提出を行っている。	家族訪問時には声かけを行い、家族から意見等が表わしやすい雰囲気づくりに努めている。意見箱、リーダーへ直接伝えるなどの他に、日報に入居者のご意見欄を設けて記入するようになっている。また、要望カードを作成し日勤者が聞き取り管理職にレポートする仕組みがある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回のカンファレンスでスタッフの意見をくみ上げ、ケアリーダーミーティングで報告している。	ユニットカンファレンスを週1回開催、連絡申し送り・個別ケアプランに関すること・入居者からの要望・苦情について・業務改善に関することなどを話し合い、ケアリーダーミーティングで報告するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間内に業務を終えることが出来るよう、努めている。スタッフの積極的な援助に対する意見を取り入れるようにし、皆でユニットケアを作り上げるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力に合わせた社内研修を実施している。管理者研修、リーダー研修と社内研修は充実しているが、外部研修に対する案内が出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、運営推進会議や地域包括支援センターの交流会に参加し、同業者との交流を持っているが、職員までは出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、生活を送る上での困り事や不安な事を、利用者に聞いたり、観察し把握するように努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、いつでも面会に来てくださいと随時説明し、面会時にはおもてなしの心でお出迎えし、入居者様とゆったりした時間を過ごして頂けるよう取り組んでいる。面会時には、利用者の生活の様子を報告し、家族様の気持ちにも傾聴し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分に聞き取りを行い、他サービスの必要性がある場合は、利用して頂く等、柔軟な対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々に応じた社会的役割を優先に考えさせて頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方により、面会になかなか来られない家族様に対しても、利用者の日頃の様子を手紙や電話で報告している。食事会や日帰り旅行を企画して、家族様にも参加して頂くようにお誘いしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前住んでいた場所や故郷へ行って頂くように家族様に働きかけ、必要であれば職員も付き添うようにしている。行く際には、家族様に了承をもらい、近所のお付き合いがあった方にも連絡して頂くようにしている。	利用開始時の家族との面談時に生活歴・趣味等を聞き取り、記録として残し、また、利用者との日々の関りの中で、利用者のこれまでの地域社会との関りを聞き取り、職員間で情報を共有している。また、入居前に関りのあった場所や知人への訪問を家族に働きかけ、実現できるよう努めている。友人・知人の訪問も歓迎している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を観察し、利用者同士の関係に配慮しながら、食事席やリビングの間取りを決め、コミュニケーションが取りやすい環境作りに努めている。又、掃除や料理を職員と一緒に取り組み、孤立しない援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取り組みについては出来ていない現状なので、今後の課題にしたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人様から聞き取りを行い、ケアプランに記載し、思いや意向に沿った援助を行うようにカンファレンスで検討している。	日々の関わりの中で、利用者から出るふとした言葉から一人ひとりの思いや希望を把握し、記録して週1回実施しているカンファレンスで、利用者の立場に立って検討し支援している。意思の疎通が難しい利用者は、家族から生活歴を聞き、その人の言動や表情から意向や思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活を、ご本人様、家族様、親戚や近所の方等、良く知っている方から聞き取りを行い、情報を集め、職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の要望を聞き取り、能力を把握し、個人に合わせたケアプラン作成を行っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での困り事を把握し、能力低下の要因を分析し、必要な補助具や援助を検討し、利用者や家族と話し合いを行っている。また、双方の要望も聞き取り、ケアプランに反映させている。	個別ケアを中心に、個々の生活状況・身体状況の変化を把握して、週1回開催するユニットカンファレンスでモニタリング。評価、計画立案を行っている。家族や利用者から出た要望カードなど計画に反映させるよう取り組んでいる。また状況が変化した際はその都度評価し計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人様の言動や職員の行った対応等、細かく記録するようにしている。必要に合わせて、週に1回のカンファレンスで話し合い、検討している。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や家族様のニーズに合わせて、専門機関への受診やボランティアの導入等、柔軟な支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店に買い物、外食、散髪に積極的に行くようにし、月1回幼稚園訪問、ボランティアの受け入れ、福祉パチンコ大会など地域に積極的に出かけるようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を入居時に選択して頂くようにし、受診に関しても、利用者、家族の要望に沿って行っている。介護で出来る事を理解し、医療機関との連携を図っている。	希望する医療機関に受診できる。グループホームへは、内科・外科など3箇所のクリニックからの往診がある。その他専門的な受診が必要な場合は、家族の状況に応じて受診に付き添うこともある。受診結果や投薬の変更等は家族に報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職として出来る事を理解し、利用者が困っている点や不安な点について、看護師と連携を取るようにしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、1週間に1度はお見舞いに伺い、主治医や看護師に状況を聞くようにしている。	利用者入院時にはホームの日常の様子やADL・支援方法について等本人の情報を電話や文書で情報を提供している。退院時は退院前カンファレンスに参加し、情報を受け退院後のホームでの支援に活かしている。入院中はお見舞いに行き馴染の関係を維持するようにし、早期退院に向けての支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期についての説明を行うようにしている。定期的に重度化した場合や終末期についての要望を利用者、家族様に伺うようにしている。	利用開始時に重度化や終末期に向けたホームの対応方針を説明している。利用者や家族の希望があれば体制を整えることはできるが、「できること・できないこと」を十分理解して頂くため何度も話し合いを繰り返しながら、対応するようにしている。	家族の意向・事業所の対応・今後の方針を家族を初めかかりつけ医等を交えて繰り返し話しあった内容を「経過記録」に記録として残し情報を共有することが望ましい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化したものを掲示しており、カンファレンス等で最新の情報を伝えるようにしている。消防署による初期対応の訓練を今後、実施していく必要がある。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っており訓練での結果をカンファレンスで周知している。避難経路と消化器の場所については、入社時に説明するようにしている。	年2回消防避難訓練を昼・夜想定で2回実施している。職員には新入職員を含め避難経路の確認により速やかに避難誘導できるように取り組んでいる。	運営推進会議等での災害に備えた地域の協力体制についての検討が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は顧客として敬い、接するようになっている。居室を訪室する際や援助を行う際には、プライバシーや誇りに配慮した対応を行っている。	法人全体で利用者の尊厳を守る事を理念に掲げ、1人1人の生活背景を大切にしながら高齢者の尊厳を年頭において、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているか常に確認し合い、日常のケアに取り組んでいる。定期的に接遇研修を実施し、職員の意識を高め、日常のケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせて、ご自分で決定して頂けるような声掛けを行っている。利用者とのコミュニケーションに時間をかけ、希望や悩みを聞き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の援助に関しては、利用者の希望に沿ったプラン作りを行い、援助を行う際には、必ず説明を行い、本人様に選択して頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが楽しめるように必ず希望を伺い、ケアプランに反映するようにしている。化粧やアクセサリーを楽しまれたり、髭も希望によっては、伸ばされている方もおられます。		



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る楽しみとして、能力に応じて台所の手伝い、準備、片づけを行って頂いている。	関連会社より、半加工食品の配達を受け、グループホーム内で盛り付けしている。汁やご飯はグループホームで作っている。利用者は心身の状態・その日の状況に応じて、準備や後片付けを、できることを出来る人が行い楽しく全員で準備し食事を摂るようにしている。水分摂取は必要な利用者には、チェックを実施し記録して脱水予防に努めている。その他、季節毎にお食事会を開き、ご家族も同席できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携の給食会社から配送されており、栄養に関しては、栄養士が管理している。1日1500～1800カロリー。食事形態にも柔軟に対応し、パンとごはんや好みに合わせて代替食を用意する等、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては、必要に合わせて行っている。特に誤嚥を起こす可能性のある方は、食事前後と就寝前に口腔ケアを実施するようにしている。義歯の状態や口腔内に異常がある場合は、歯科往診で診て頂くようにしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の原因を分析し、必要に合わせて専門機関にて治療を行い、必要な援助を行い、オムツの使用を減らしていくように努めている。羞恥心に配慮し、環境を整え、自立に向けた支援を行っている。	24時間の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導する等、声かけで可能な限り、1人1人にあった排泄ケアを行い、。羞恥心への配慮をしながら、自立に向けて支援している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状況を把握し、便秘の種類や原因を分析し、食品での工夫や排便を促すケアの工夫に取り組んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は楽しみとして、定期的な入浴日は、利用者の希望に沿って、決めているが、都度、希望を聞き取るようにしている。羞恥心に配慮し、お湯も都度入れ替えている。入浴剤の香りや音楽を聞きながら入浴して頂いたり、個々の希望に合わせている。	入浴日については、日常生活動作が自立している利用者については、時間や曜日に関係なく入浴できる。援助が必要な方は、週2～3回、時間を決め入浴している。入浴が楽しめるように様々な工夫をしながら可能な限り個々の希望にあった入浴の支援ができるよう取り組んでいる。同性介助を行い羞恥心に配慮した支援がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、習慣に合わせている。職員とTVを見ながらのティータイムを行っており、リラックスした雰囲気づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況と目的、用法、用量は、職員全員が把握している。薬の変更があった場合は、必要に合わせて観察記録を作成し、変化を記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味、嗜好品の聞き取りを行い、役割や楽しみの重要性を職員が理解し、支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出頻度や行き先の要望を聞き取り、外出日を設定して、支援している。施設職員だけでは要望にこたえられない場合は、家族様やボランティアの力も借りながら、支援している。	年間行事・施設行事で実施する外出以外に、利用者の気分転換やストレス発散ができるように個々の希望を聞き、要望に沿った日常的な外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、管理可能な方に関しては、管理して頂いている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に電話をかけたいと要望があれば、かけて頂いている。家族様や知人からの手紙は、本人様に手渡す際に、返事を出されるかの確認を行い、要望に沿った援助を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節を感じて頂けるように花を飾ったり、過ごしやすい室温、臭いにも配慮し、定期的に換気を行い、居心地良く過ごして頂けるように努めている。	各ユニットの入り口付近は、家庭的な温かい雰囲気作りが出来ており、共用空間は、各ユニット毎に個性豊かな雰囲気作りが出来ており、フロアに花や装飾品を飾り、ソファやテーブルの配置にも配慮が行き届き入居者が集い、利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごし、くつろいだ時間が過ごせる環境作りが出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たい方、音楽を聞きたい方等、要望が異なっても対応出来るように空間を区切り、要望に応じた空間で過ごして頂くようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用されていた家具や布団、思入れのある小物や写真、仏壇を持ちこんで頂いたり、お好きな花を飾って頂く等、利用者や家族様と相談しながら、居心地の良い居室スペースになるよう支援している。	利用者ごとに、自宅から使い慣れた家具や調度品を持ち込み、穏かに過ごせるよう支援している。居室のベランダは開錠して、出入りは自由で閉塞感のないゆったりとした居室作りが出来ている。居室入り口には場所間違い防止の為に、各ユニット毎に名前の表示が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かし、標示、移動動線や休憩場所を設置し、滑りにくい床材を使用する等の配慮を行っている。		